

イチジク「ジディ」台接ぎ木苗の早期育成法

樹勢低下した園地では強勢台木「ジディ」を利用した苗木への改植が始まっているが、接ぎ木育苗に2年かかるため、苗供給が進んでいない。そこで台木と穂木を接ぎ木した「接ぎ穂」を挿し木する「接ぎ挿し法」と加温ハウスを活用した育苗により、良質な接ぎ木苗を1年で育成する方法を開発した。

内 容

「ジディ」台木はセンチウ被害や連作により樹勢低下した園地での改植に有効であるが、台木の育成に1年、接ぎ木後の苗木の育成に1年の合計2年を要するため、早期育成方法の開発が求められていた。また、産地のJA等では冬季における加温ハウスの有効活用が課題であった。そこで当センターでは、「ジディ」を用い接ぎ木方法や苗の管理方法を検討し、接ぎ木苗の早期育成法を開発した。

1 「接ぎ挿し法」による育苗期間の短縮

「ジディ」の休眠枝の上部に「柵井^{ます}ドーフィン」の休眠枝(1芽)を接ぎ木した「接ぎ穂」を作成した。それをポットに挿し木し(接ぎ挿し法)、台木と穂木の育成を同時に行うことにより、育苗期間を1年に短縮した。

2 加温育苗による良質な接ぎ挿し苗の育成

1月上旬に接ぎ挿しし、萌芽^{ほうが}を揃^{そろ}えるためビニール被覆(直後から2週間)して加温管理(日中20～30℃、夜間18℃以上、約2.5か月間)し

た苗は、3月下旬接ぎ挿しの無加温苗と比べて、新梢^{しゅう}長、節数が優れ、良質な苗が育成できた(表)。また、両区とも新梢基部径は太く、基部径10mm以上の苗率^{とくびょう}(得苗率)も高かった。

鉢上げして二次育苗する時期は、穂木からの展葉が盛んになる挿し木後50日以降とし(写真)、支柱を立てて育成する。

普及上の注意事項

イチジクの休眠枝は太くて堅く、接ぎ木作業は技術を要するので、接ぎ木実施者への研修が必要である。

黒田 英明(農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2423)



写真 接ぎ挿し後60日目(展葉7枚)

表 加温と接ぎ挿し時期が「ジディ」台「柵井ドーフィン」苗の生育に及ぼす影響(2022年)

加温	接ぎ挿し時期	新梢長(cm)	節数	新梢基部径(mm)	得苗率 ^z (%)
有 ^y	1月上旬	170	34.1	15.8	92
無	3月下旬	114	25.5	14.1	92
有意性 ^x		**	**	n. s.	

^z 新梢基部径10mm以上の苗の割合

(調査日:11月28日)

^y 接ぎ挿し後、日中20～30℃、夜間18℃以上で、約2.5か月間、加温管理、その後無加温管理

^x t検定により**は1%水準で有意差あり、n. s.は有意差なし(n=12)